

花だより

Vol. 8

発行日 平成22年3月31日

ごあいさつ

平成21年4月から「石川県花き園芸協会」の会長になりましたJA松任花き部会の松浦です。よろしくお申し上げます。

さて、本協会は花き栽培技術の向上と会員間の連携強化、並びに本県花き園芸の振興に寄与するため、栽培講習会や品評会、PR活動などを行っております。

特に、本年度は新たに、本県花き産地を紹介するパンフレットの作成、フラワーアレンジ講習会における本県産花きのPR等を行いました。また、品評会では、審査終了後に県庁19階「展望ロビー」において1週間出品物を展示し、多くの県民にご覧いただきました。

また、2月に開催した研修会では、日本一の宿根かすみそう産地「昭和村」のリーダーであ

る菅家博昭氏を講師にお招きし、厳しい販売状況の中で産地が生き残るためにどんなことに取り組めば良いかお話しいただきました。

近年、花き園芸を取り巻く情勢は益々厳しいと言われますが、全国を見れば、自ら創意工夫し頑張っている元気な生産者や産地が多くあります。本協会でも、本県産花きの振興につながるような活動を進めて参りたいと考えておりますので、会員の皆様には、引き続き積極的な提言と参加をお願いいたします。

最後になりましたが、特別会員及び賛助会員の関係団体の皆様には、本協会の活動と本県産花きの振興のため、今後ともご協力賜りますようお願い申し上げます。

協会の活動紹介

切花葉ぼたん・ストック現地検討会を開催

平成21年11月11日(水)、切花葉ぼたんとストックの現地検討会を開催し、生産者、市場、全農・JA、県農林総合事務所等約30名が参加して、宝達志水町森本地区、かほく市若緑地区、金沢市下安原地区の3カ所の現地圃場を巡回した。

現地巡回終了後、県農業会館で切花葉ぼたんの出荷販売会議を開催したところ、市場関係者から、

主産地の和歌山県では地球温暖化の影響で良品の栽培が年々難しくなっており、早くも

トウ立ちしている産地がある

需要が集中する12月18日以降に出荷ピークが来るよう生産計画を調整する

不景気の影響で、小売店は需要期の直前まで仕入れを控える傾向が強まっている等の情報提供があった。

また、JA小松市花卉部会から、切花葉ぼたん極小輪(花径が10cm未満)やラメ付き商品の試作の報告があり、市場関係者から、フラワーアレンジなど新たな需要が期待できるとの意見をいただいた。



現地検討会の様子



極小輪の切花葉ぼたん

第5回 石川県花き品評会及び表彰式を開催

平成21年12月9日(水)、第5回石川県花き品評会(正月・クリスマス向け花きが対象)を石川県農業総合研究センターにおいて開催し、ストックや切花葉ぼたんを中心に4部門で合計82点について審査を行った。

その結果、最優秀賞(県知事賞)は金沢市の西村俊雄氏が出品した切花葉ぼたんが受賞した。「晴姿」をスプレータイプに仕立てたもので、ボリューム・揃い・切り前の全てにおいて素晴

らしい上、今後の生産拡大に対する期待もあって受賞となった。

品評会表彰式は、平成22年2月26日(金)、同研究センターで開催され、県生産流通課松村課長、全農石川県本部北本園芸課長、金沢総合花き株式会社上坂社長、株式会社金沢花市場村松社長、当協会松浦会長から9名の受賞者に賞状と副賞が授与され、来賓を代表して松村課長から祝辞が述べられた。

《受賞者一覧》

賞名	入賞者氏名	受賞品目	所属部会	
最優秀賞	石川県知事賞 西村俊雄	切花葉ぼたん	JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会	
優秀賞	全農石川県本部運営委員長賞 野村清志	ペイント柳	JAはくい押水花木部会	
	金沢総合花き株式会社社長賞 川端善伸	ポインセチア	石川県鉢物園芸生産組合	
	株式会社金沢花市場社長賞 竹内美栄子	ストック	JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会	
奨励賞	石川県花き園芸協会会長賞	寺本貢	小菊	JA金沢市花卉部会
		稲垣稔美	切花葉ぼたん	羽咋郡市切花研究会
		北久美子	ストック	JA小松市花卉部会
		西村洋子	ストック	JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会
		太平雅也	ポインセチア	石川県鉢物園芸生産組合



最優秀賞を受賞した西村さん



受賞作品（切花葉ばたん）

全体研修会を開催

平成22年2月26日（金）、第5回石川県花き品評会表彰式に続き、全体研修会を県農業総合研究センターにおいて開催し、会員及び関係者約50名が参加した。

基調講演は、日本一の宿根かすみそう産地である福島県昭和村の産地リーダー、昭和花き研究会会長の菅家博昭氏を講師に迎え、「生き残る産地として必要な取り組み」と題して、「日持ち保証」や流通業者と連携した販促活動など、具体的な取組内容について紹介していただいた。

続いて、事例報告として、

(1) JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会の西村俊雄氏から「スプレー、ブーケタイプ切花葉ばたん栽培の取組」について

(2) 県央農林総合事務所の津島香織主任技師から「量販店等における花の新たな商品づくりの取組事例」について情報提供していただいた。



講師の昭和花き研究会 菅家さん

《菅家氏の基調講演の要約》

花き産地が生き残るための貴重なアドバイスがたくさん詰まっています。

1 『栽培する品目は変えないこと！』

今まで生産してきた品目が売れなくなっても、すぐに新しい品目への転換を検討するのではなく、同じ品目で販売方法を工夫する方が大切。

昭和村の宿根かすみそうもブームが過ぎた時に、規格や切り前の見直し、染色加工など色々な販売の工夫をし、新たな販路を開拓して復活した。

2 『消費の変化』

花の大きさや美しさよりも、栽培方法の違いや環境負荷の程度などで評価される時代になってきた。また、地産地消の評価も高くなった。

生産者自らが、地元でどんな花が作られており、どんな良さがあるかを消費者に伝える努力をもっとすべきである。

3 『求められる品質』

ブランド産地になるには、商品の見た目も大切だが、日持ちや出荷時期・数量等に関する情報提供も重要であり、特に契約取引やインターネット販売では不可欠である。

4 『PRの重要性』

自分が生産している花の良さを簡潔な言葉で表現できることが必要。

また、マスコミに情報を出すときは、小分けして発信することが大切で、例えば、初出荷に向けて出荷会議開催、初出荷のための収穫作業、初出荷のための初選花、初セリ、首都圏の小売店で今年最初の販売と分ければ4回も情報発信でき、反響も大きく違ってくる。

5 『昭和花き研究会で取組んできたこと』

宿根かすみそうの価格が低迷して国内産地が半減する中、昭和花き研究会では、全国に先駆けて「バケット流通」を導入し、高い鮮度で他産地との差別化に取り組んだ。

さらに鮮度を高めるため、採花後すぐに圃場で水揚げし、雪室型の貯蔵庫で予冷出荷する体制を整備するとともに、日持ち試験を重ねた結果、今年から「5日間の日持ち保証」販売に取り組んでいる。



「かすみそうの日」のキャンペーン

◇新しい動き◇

大阪鶴見花き地方卸売市場において本県産花きをPR

平成21年10月2日(金)、役員等16名が(株)なにわ花いちばにおいて、約700人の買参人の前でセリ台に上がり、挨拶を行った。

挨拶では、買参人全員に本県産花きのパンフレットを配布し、松浦会長、JAはくい押水花木部の野村部会長、JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会の西村部会長の3名が、順に産地紹介やニューサイラン、スプレーストック等について説明した。

セリの後、(株)なにわ花いちばの会議室で大西社長と坂口販売部長と懇談し、「石川県産の

量が増えてきたので、花屋が石川県産を意識し始めた」「本市場のインターネット販売を通じて石川県産の知名度を高めてもらいたい」との意見を頂いた。

また、「注目される商品を作るには、珍しさや意外性を活かせば、意外に簡単にできる」「良い商品を継続して出荷することが産地評価を高める」「インターネット販売をするには、出荷4日前までに正確な出荷情報を市場に連絡し、連絡どおりの規格・数量を厳守することが必要」等のご指摘をいただきました。



せり前挨拶の様子



大西社長、坂口部長との意見交換

生花店のフラワーアレンジメント講習会で本県産花きをPR

平成21年10月21日(水)、(株)金沢花市場で石川県生花小売商協同組合のフラワーアレンジメント講習会(小売店従業員約120名が参加)が開催された。

講習会では、当協会から提供した本県産の「ニューサイラン」「サンゴミズキ」「石化柳」「スプレーストック」「ひまわり」「ばら」「糸ぎく」等を使って、有名フラワーデザイナーの久保数政氏がアレンジメントに仕上げ、独創的な花の使い方に参加者全員が感心していた。

久保氏によれば、「ヨーロッパでは生産者と

花屋がタイアップして品目をPRすることで流行を作っている」とのこと。

また、平成21年10月25日(日)、金沢市公設花き地方卸売市場の「花き市場まつり」等において、石川県花商事業協同組合等が「親子によるフラワーアレンジメント教室」を開催した。

教室では、当協会から提供した本県産の「サンゴミズキ」「ピンポン菊」「スプレーストック」「ヒムロ杉」「花モモ」を提供し、県産花きの良さをPRした。



久保数政氏が制作したアレンジメント
(県産 ニューサイランを使用)



親子によるフラワーアレンジメント教室
(県産 スプレーストック、花モモを使用)

会員の活動を紹介

【JA石川かほく花き部会】

私達の部会は平成20年に設立されたばかりで、河北潟干拓地や内灘砂丘などで、きくやストック等を栽培しています。

部会では、会員の交流や栽培技術の向上を目的として、毎月1回程度の情報交換会や勉強会を開催しています。また、昨年から切花葉ばた

んの生産拡大にも取り組み、先進地視察や現地検討会を行っています。

会員数は3名と少ないですが、新たに切花葉ばたんの栽培を始めた方などを部会へ勧誘し、組織を大きく育てたいと思っています。

(JA石川かほく花き部会 吉住 哲夫)



切花葉ばたん現地検討会



先進地視察研修

【JA加賀花き生産組合】

JA加賀花き生産組合は平成2年に設立され、会員は25名です。

夏には小ぎく、冬には切花葉ばたんを主に生産しており、県内や京阪神の市場に出荷してお

ります。

特に、露地で栽培する切花葉ばたんは、発色がきれいと高い評価を頂いております。

(JA加賀花き生産組合 北七 博子)



和歌山県JA紀の里への視察

